

理学研究科数学専攻（修士課程）

理念

数学専攻は、「高度の数学的能力を持つ数理技術者」、「幅広い知識を活かす数学教育者・研究者」の育成を目指す。

教育方針

本学の建学の精神「学問による人間形成」を踏まえ、「広い視野に立って精深な学識を授け、専門分野における研究の能力又は高度の専門性を要する職業等に必要の高度の能力を養う」ことを目的としている。具体的には、高度の数学的能力を持つ数学教育者及び高度な専門的知識を備えた数理技術者の養成を目指している。

アドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）

数学に興味を持ち、学部での研鑽をさらに深めたい学生や、スキルアップを目指す社会人を求めている。

大学卒業時に中学校教諭Ⅰ種免許、高等学校教諭Ⅰ種免許を取得し大学院修了時にさらに上級の資格である専修免許状の取得を目指す学生や、統計数学、計算数学をベースとした社会現象の数理的な解析などに関心を持っている人材を求めている。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

数学専攻では、理学部数学科で修得した数学の一般知識を前提として担当教員が各専門の研究指導を行うとともに、高度の専門職業人の養成のための応用につながる講義科目を配置している。カリキュラムは「代数学」「幾何学」「解析学」「社会数理」の4分野から構成されている。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

数学専攻では、所定の単位を修得し、必要な研究指導を受け、修士論文の審査および最終試験に合格した者は、以下の能力を身につけていると判断され、修士（理学）の学位が授与される。

1. 数学を体系的に勉強できる。
2. 研究結果を修士論文としてまとめ、口頭発表できる。
3. 中学校・高等学校の教員として、高度な専門的知識を身につけて教育・指導ができる。または、統計数学・計算数学をベースとして、社会現象の数理的な解析ができる。